

手法・制度重視からダイナミックな人事政策の展開へ

実力主義にもとづく人事管理の 展開セミナー

- 昨今の組織人事の改革を振り返ってみると、コンピテンシーやバランススコアカード等目新しい手法や実績を計る目的で目標管理の手法を整備し導入を図る手法重視の人事制度の再構築に終わっていることが多く見られます。
- また、人事政策として、バブル崩壊以降の超長期の構造不況を乗り越える必要から、成果主義が展開されてきました。この成果主義は人材の現在価値だけで管理されるため、人材の創造性の引き出しや育成が後手に回ることは否定できません。さらに、ポスト団塊の世代に向けて人材の登用や育成には不向きです。その結果、団塊世代の負担が軽くなるに従い、少子化時代に対応するため若手・中堅層への対応から年功が復活する懸念もあります。
- このような状況下で、これからの時代をにらんで、実力主義の本格的な展開が求められています。実力主義とは、成果—仕事—人材といった3つの側面から、将来性に着目し役割により育成し人材を仕事と賃金等で処遇することにあります。
- このような考えのもと、画一的な人事制度のモデルを導入するのではなく、個々の企業の置かれた状況に応じたトータルな人事制度の展開が求められています。
- さらに、従来のように単に制度を作るといった硬直的な視点ではなく、制度づくりと並行して、その制度の主旨に沿って人材や組織を開発するためにどう人事政策を展開するか、その政策展開に合わせて人事制度をどのようにマイナーチェンジするかといったダイナミック展開が求められています。
- 本セミナーでは、人事管理のトータルなシステム化と運用に焦点を当て、ポイントを整理し、実践的な展開に資するためのセミナーをご提案いたします。

(株) 日本総合研究所 研究事業本部 マネジメントコンサルタント 河田寛次



日本総研

The Japan Research Institute, Limited

セミナーの内容

1. これからの時代に求められる人事管理とは？
 - (1) 実力主義の要諦とこれからの人事管理の課題
 - (2) 人事管理の発展段階と要員構成からの人事管理のあり方の課題の発掘
2. 企業の求める多様な人材像の明確化
 - (1) 複線型の人材管理フレーム構築の必要性
 - (2) 職種別人材像の明確化のポイント
 - (3) 人材の高度化の状況に応じた人材像の作成と高度化のためのシナリオ
 - (4) 人材管理フレームとモデルケース
3. ダイナミックな賃金処遇
 - (1) 複数賃金体系の必要性
 - (2) 賃金体系のモデルケース
 - (3) 業績連動型成果配分
4. 期待人材像にもとづく育成型評価システム
 - (1) 査定目的から人材育成へ転換した目標管理の仕組み
 - (2) 育成型評価システムの構築
 - (3) 評価システムの多様な活用
5. より高度化した人材の育成・活用・処遇
 - (1) CDP の展開
 - (2) 管理職の高度化のための組織と役職の再構築
 - (3) 年功精算
6. 人事管理の再構築の仕方
 - (1) 発展段階的なシナリオの必要性
 - (2) 再構築のモデルケース

当日は、最新の内容を盛り込むため上記の内容を若干変更することがあります。

日 時

平成17年2月7日（月） 受付 13:00 開始 13:30～17:30 予定

会 場

（株）日本総合研究所 東京本社 1階セミナールーム

（地下鉄半蔵門線半蔵門駅徒歩3分・有楽町線麴町駅徒歩7分・JR市ヶ谷駅徒歩15分）

講 師

弊社マネジメントコンサルタント 河田寛次

経営政策、人事政策が専門分野。一部上場からベンチャー企業のトップに対するマネジメントのアドバイザーサポートの依頼も多い。コンサルティング実績を有する業種は、鉄鋼、電機、情報、通信、マスコミ、建設、製薬、食品、アパレル、ディスプレイ、エンターテインメント、卸、小売りなど。

受講料

お一人様 ￥10,500（消費税込み）

本テーマは、それぞれの企業にあった展開の仕方が求められています。従って、本セミナーの受講者が希望される場合は、個別相談（セミナー受講料以外は不要）を承ります。